

3学期始業式式辞

副校長 堀江 嘉明

明けましておめでとうございます。皆さんもそれぞれ穏やかな正月を過ごしたことと思います。さて、（諸説ありますが）1月1日の元日の夜に見る夢を『初夢』といいます。皆さんはどんな『初夢』を見ましたか。『初夢』は本当に実現する『正夢』になるかもしれないともいわれていますね。

今年は「令和」になって7年目、令和7年です。「令和」の前は「平成」という時代が30年程続きました。皆さんは全員「平成」生まれですね。その前は「昭和」という時代が60年程続きました。「昭和」の時代は1926年に始まったので、昭和の最初の年から数えると、今年は「昭和」に直すと、100年目となります。100歳の方々がお生まれになった年に「昭和」が始まりました。日本に住んでいる100歳以上の方々は約9万人と聞いています。ちなみに舞鶴市に住んでいる人々は約7万数千人とのことです。

さて、「チャットGPT」を用いて、今から100年前の日本の子どもたちが予想した「100年後の世界」を調べました。すると、100年後の世界は、①地上を走るだけでなく、空を飛ぶ車ができている ②1人が1機ずつ飛行機を持つ ③掃除洗濯料理ロボットが家事を担う ④食材を入れたら勝手に料理ができてしまう ⑤顔がお互いに見える電話を使っている ⑥地底や宇宙探検ができる ⑦空に町が浮かんでいる ⑧重い病気が治り、老化することはない……

さて、100年後の現在、すでに「掃除」するロボットがあり、電子レンジが「チン！」と鳴れば、簡単に料理が完成しています。また、「顔がお互いに見える電話」はスマホのライン電話で実現しています。また、この始業式も「オンライン中継」をしています。宇宙探検もみんなが大人になったころには「観光」旅行の感覚で、「宇宙」探検旅行が可能となるといわれています。「空に浮かぶ町」はまだ実現できていませんが、100年前に比べて、医療が進んで、当時はできなかったことも多くできるようになっています。

皆さん一人一人がしっかりと心の中に「こんなことしたいなあ」という「夢」を抱いてください。実現までには長い年月がかかるかもしれませんが、100年前の子どもたちの抱いた「夢」も、現在、すでに実現しているものが多くあるのは本当に驚くべきことです。皆さんの心の中にある「夢」も100年後には幾つかはきっと実ることでしょう。

「夢」をしっかりと抱く「3学期」にしていきましょう。